



洞窟のような採掘現場は、砥取家の4代目・土橋要造さんが開拓した場所。入り口から向かって斜め左側は、掘り進むうちに反対側へと穴が開いています。「砥石を見分け、目を見て大きく切り出すのが腕」といい、それはまさに職人の経験と勘によるもの。 ●砥取家 京都府亀岡市東本梅町大内上条20 Tel.0771-26-2545



採掘を行っている丸尾山を案内してもらおうと、山の頂上付近に開かれた採掘現場は、まるで洞窟。よく見ると、天井も周囲も多彩な色の石が層になっていて、とても幻想的。それもそのはず、さまざまな用途によって使い分けられる砥石のほぼ全てがここにあり、その数、ざっと約三十種。工房でも使用している、「戸煎」という仕上げ用の砥石も、良質なものが採れるのだそうです。

## 世界一ともいわれる 砥石の産出地へ

版木を彫る彫刻刀など、竹笹堂で扱う刃物は、職人各自が自ら研いで手入れをします。このとき用いる砥石の名産地が、京都府・亀岡市。工房のメンバーが砥石山を見学してみたいと、採掘から販売まで手掛けている砥取家の土橋さんを訪ねました。



竹笹堂で彫刻刀を研ぐのに使っているのは、主に目の細かい、仕上げ用の天然砥石。研ぎ始めると、砥石の粒子が混じった研ぎ汁が出てきます。これを刃物とすり合わせるようにして研ぎます。

## MOKUBAN NO 木版の 道具箱 DOUGUBAKO

## 砥石 TOISHI

砥石には天然砥石と人造砥石があり、天然砥石で研ぐと、切れ味と刃持ちがよいといわれています。大きく分けて、荒砥石、中砥石、仕上げ砥石と粒度により分かれており、仕上げの段階によって使い分けれます。

